

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<p><研究課題名></p> <p>糖尿病黄斑浮腫の再発から抗 VEGF 薬の硝子体注射をするまでの期間が治療成績に得た得る影響</p>
<p><研究機関・研究責任者名></p> <p>日本大学医学部附属板橋病院 眼科 (研究責任者) 長岡 泰司</p>
<p><研究期間></p> <p>承認日 ~ 西暦 2020 年 12 月 31 日</p>
<p><研究の目的と意義></p> <p>糖尿病黄斑浮腫は著しい視力低下をもたらし、その治療は臨床的に大きな課題です。原因としては VEGF という因子が重要であり、これを阻害する抗 VEGF 薬の硝子体注射が治療として有効ですが、再発も多く、それに合わせて注射も頻回なものになります。糖尿病黄斑浮腫における抗 VEGF 薬の硝子体内注射において、再発してから再投与するまでの期間の違いによって、治療成績に影響が与えられるかどうかを明らかとするが本研究の目的です。</p>
<p><利用する試料・情報の項目></p> <p>カルテを確認することで、再発してから再投与するまでの期間によって、浮腫の改善や視力に違いが生じているかを確認します。</p>
<p><対象となる患者さん></p> <p>当院を受診した糖尿病黄斑浮腫の患者さんのうち、西暦 2017 年 4 月から 2019 年 12 月までの間に、抗 VEGF 治療を施行された方。</p>
<p><研究の方法></p> <p>当院眼科で診察・治療を受けられた患者様のカルテを調べさせていただきます。また、眼科での検査の結果や治療成績を過去にさかのぼっても調べさせていただきます。</p>
<p><外部への試料・情報の提供等></p> <p>データは患者名を隠し、個別に ID を振ってどの患者さんのデータかを特定できない形にして研究主任機関に電子メールにて送付します。データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、研究責任者が保管・管理します。</p>

<研究組織>

福井大学医学部附属病院眼科 高村佳宏(責任者)

共同研究施設

北海道大学眼科、大阪医科大学眼科、名古屋市立大学眼科、杏林大学眼科、久留米大学眼科、日本大学眼科

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院 (東京都板橋区大谷口上町 30-1)

眼科 氏名:長岡 泰司

電話:03-3972-8111 内線:(医局)2531 (PHS)8911

日本大学医学部附属板橋病院(ver.1705)